



今回もうさおさん、健さんの投句がありました。
それではさっそく、お二人の句を拝見しましょう。

うさおさん作

見えぬ眼で犬暖かし萩ひとつ

ライちゃんの句ですね。萩の花の横にのんびりと寝そべっている姿を想像します。
見えぬ、暖か、萩、ひとつ・・言いたい事が山盛りは良くわかります。
俳句ではそれをあえてひとつに絞り、あとは読み手に委ねるのです。
その方が、かえってより深い句になると思います。
ワンちゃんには鋭い嗅覚があるので、鼻がライちゃんの目の代わりかも・・
ご主人の優しさもクールにしまいこんで、萩の花に興味を持つ犬に重点を
置いてもよいのでは

*ひくひくと萩へ鼻先寄せる犬

潮満ちて魚の集う秋の潟

良いですね。秋の潟の様子が見えてきます。

肌寒し寄り添う犬はくうと鳴く

この句も良いと思います。くうと鳴くっていうのが可愛いです。
順序を入れ替えて、

*くうと鳴く犬の鼓動や肌寒し

登り坂汗ばむほどに風涼し

お盆を過ぎると季節はもう秋です。汗 涼し・・どちらも夏の季節です。
今を詠むのが俳句なので、出来れば当季で詠まれた方がよいと思います。
同じ涼しでも、秋涼し 新涼 涼新た になると初秋の季語になるのです。

*新涼や坂の上より風の吹く





続いて健さんの句です。

朝寒し階下へ降りる足の冷え

急に冷え込んできました。火の気のない所への移動は勇気がいらしますね。切れ字を使うと思いがより強まりますよ。*朝寒や階下に降りる足の冷え

冬浅し茶房の窓の格子影

格子影って良い所に目をつけられていますね。この場合も季語を思い切つて離すともっと面白くなります。二つを比べてみると「や」でいったん大きく切る方が句柄が大きくなると思いませんか。

*初冬の茶房の窓の格子影 *初冬や茶房の窓の格子影

街灯の奥へと並ぶ寒夜かな

良い句ですね。街灯が並んでいる道幅まで見えてきます。お上手です。

短日や為すべきことをすぐ忘れ

まったくその通りです(笑) あれこれやっている内にすぐに日暮れがやってきてやり残した事の多さががっかりしてしまいます。秋の夜長、冬の短日 結局は同じ夜の長さなのですが、ニュアンスが微妙に違いますね。

点滴の音なく落ちる冬の雲

季語の使い方がお上手ですね。落ちるが必要かな・・・とも思います。

*点滴の音のなき音冬の雲

手の甲に残るメモ書き暮早し

メモ紙がなくてつい手の甲に必要事項を書いてしまう。仕事が終わってふと手の甲にメモが残っているのを見つけた。主人公が見えますね、季語も効いています。

暑い暑いと言っていたのが、うそのように季節が変わっていきます。

歳時記を読んでいると、本当に日本の言葉の美しさを感じます。

うさおさんも健さんも、上手に季語を取り入れて、俳句にしていらっしゃいますね。

もうすぐ師走、ますます忙しくなりますが、年末年始にも日本らしい季語があります。忙しい時だからこそ、道を歩きながらびったりの季語を探してみませんか。

そこここに神御座す島紅葉散る

小春日の手紙ふたりの距離縮む ゆうこ

